ヨハネの福音書―第２章―

2012/04/24

文責：宮

書記：♨

～１章から２章の流れ～

１章の後半部分では、イエスがキリストであること、イエスが神の子であることを証言した人々が現われました。そして最後の部分ではナタナエルが、「あなたは神の子です。イスラエルの王です。」と言ったとき、イエスは以下のように返答します。

「あなたがいちじくの木下にいるのを見た、とわたしが言ったので、あなたは信じるのですか。あなたは、それよりもさらに大きなことを見ることになります。」

ここで言うさらに大きなこととは、数々の奇跡行為のことです。２章からそれが描かれていますが、「しるし」という言葉が使われています。それはまた同時にイエスが神の子である証拠とも言えるものだと思われます。

～語注および参照箇所～

・あかし

奇跡行為の効果の一つ。「この者こそ神の子である」というイエスの性質が明らかにされること。

・過越祭

起源は「出エジプト」にあるとされる。古代エジプトに仕えさせられ、奴隷状態にあったイスラエル人の苦しみを聞き届けた神が、彼らをエジプトから救い出される際、神はモーセ遣わしてエジプトのファラオに、イスラエル人をエジプトから解放させるよう命じた。しかし、ファラオはイスラエル人を解放しなかったため神は、エジプトの地に１０の災い（血・蛙・ぶよ・あぶ・疫病・はれ物・雹・いなご・暗闇・長子の死）を臨ませた。９の災いに至ってもファラオは奴隷たちを離さなかったので、遂に最後の災いである長子の死が及んだ。イスラエル人がその災いを過ぎ越すよう、神は『過越と除酵の儀礼』を命じた。その儀礼（小羊の血を2本の柱と鴨居に塗る）を守った者だけが災いを過ぎ越すことができたとされる。この出来事にちなみ、当時においても1月14日の晩に小羊を犠牲とし、これを食べる過越祭が行われた。

・「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」

→cf.詩編69篇10節

→当時はその詩編がメシヤに対する言及だと理解されていた。

・神殿

①

②

Ｑ．２４節＝「ほとんどの人間が一時的に奇跡行為に熱狂しているにすぎず、すぐにイエスから興味を失うことを知っていた」

と解釈することが可能であるが、それではイエスは何のために奇跡を施したのか（自身がメシア・神の子であるしるしを人びとに示すためではないようであるが、それでは何を目的とするのだろうか）。

→ＳＱ？